

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**千葉県 我孫子市立湖北台中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

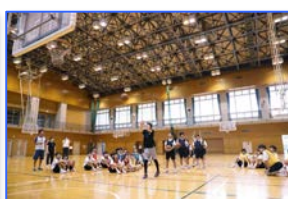
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



# 実施内容

■期 日 : 2019年5月8日 (水)

■ク ラ ス : 2年1組 (37名)

■オリンピアン : 坪井 保菜美 先生 (体操/新体操) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックバリューについて簡単に説明。新体操では「リボン」、「フープ」、「クラブ」、「ボール」、「ロープ」の5つの手具を使うことを紹介し、リボンを使ったデモンストレーションを行う。
- ・ストレッチを実施後、ボール取りゲームを5回実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・2班毎3チームに分かれて8の字跳びを90秒間×3回実施。90秒間の間に引っかけらずに一番多く跳べた回数を競う。
- ・各回終了後、回数と実施した作戦を発表し「縄の回し方を変えた」、「縄を短くした」、「うまい生徒を前後に配置し並び順を変えた」などが発表された。
- ・最後に坪井先生が、集中してる顔、楽しい顔が表れていたこと、お互いに励まして声がよく聞こえるようになり、記録に表れていたことを称えた。

## 4. まとめ



- ・運動の時間で、オリンピックバリューを意識していたか問いかけると、半数近くの生徒の手が挙がった。座学の時間は坪井先生の経験談等を話すので、オリンピックバリューを覚えて今後の生活に役立ててほしい、また運動の時間で皆がまとまり、協力した時間を忘れないように伝え、授業終了。

■授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら「フェアリージャパン」の一員として北京大会新体操に出場したこと、競技のルールや手具について説明。
- ・坪井先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「リスペクト＝敬意／尊重、感謝」、「フレンドシップ＝友情、協力、チームワーク、思いやり」、「エクセレンス＝卓越、努力、あきらめない、全力で取り組む」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：夢や目標を実現させるために何をすべきか、取り組みたいこと等を書き出してみよう。
- 発表：「恐れずに挑戦する」「練習の積み重ね」「何ごとにも全力で一生懸命」「日々の練習を大切にする」「できないことをできるに変える」（エクセレンス）、「合唱コンクールで優勝するためにチームワークを大切にする」「みんなで協力する」（フレンドシップ）等

4. まとめ



- ・夢に向かって具体的な目標を持ち、継続することで実現に近づく。さまざまな経験をする事で視野が広がるので、新しいことに挑戦してほしい。
- ・坪井先生は、新体操以外では絵を描くことが好きであり、個展を開くことが今の新しい夢である。夢は叶えて終わりではなく、新しい夢を見つけてほしい。今日の時間を良い経験にしてみたい、皆のこれからの人生に期待していると伝え、終了。



# 実施内容

■期 日 : 2019年5月8日 (水)

■ク ラ ス : 2年2組 (37名)、2年3組 (36名)

■オリンピアン : 千葉 真子 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、2020年には日本でオリンピックが開催されるので、選手だけではなく皆にも応援や、ボランティア、道案内等の様々な形でオリンピックに参加してほしいと伝える。オリンピックを身近に感じることができる授業にしたいと話した後、準備体操としてストレッチを実施。その後、走り方についてアドバイスをを行った。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・2班ずつに3チームに分かれて絆リレー3回実施。各回終了後にタイムを縮められようとして作戦タイムを取りながら行った。  
・オリンピックバリューの「エクセレンス=卓越、努力をする、ベストを尽くす、全力で取り組む、諦めない」、「フレンドシップ=友情、チームワークで息を合わせないと達成できない、お互いに声を掛け合う」、「リスペクト=尊敬、お互いを理解する、できない子をカバーしあう」ことを意識しながら取り組んでほしいと伝えた。

## 4. まとめ



・オリンピックバリューを意識したことによってタイムを短縮できたように、オリンピックは選手だけでなく、皆の日常生活の中に、身近にあるものだと感じてもらったのではないかと話す。座学の時間では、オリンピックバリューを意識しながら班で達成したい目標を考えてもらうことを予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・運動の時間を振り返りながら3つのオリンピックバリューの意味を改めて説明し、映像を見せながら自己紹介。
- ・千葉先生にととのオリンピックバリューについて、先生の経験を交えながら「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る、全力で取り組む、あきらめない」、「フレンドシップ＝友情、チームワーク、協力」、「リスペクト＝敬意／尊重、感謝、思いやり、お互いを理解する」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：1学期に達成したい目標、達成するためにやるべきことを具体的に書いてみよう。
- 発表：何ごとにあきらめず全力で取り組む、常にベストを尽くす、思い切り楽しむ(エクセレンス)、お互いを理解し協力し合って感謝できる仲間、互いに思いやり協力する、チームワークを大切にする(フレンドシップ)、感謝の気持ちを大切に、1人1人が個性を尊重する、みんなのために係の準備をしてくれたことに感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、みんなの身近な日常生活の中にも見出すことができる。苦しい時、悩んだ時はオリンピックバリューを思い出して、生きる力につなげてほしい。東京2020大会では、試合の結果だけではなく選手の生き様や競技を通して伝えたいことを想像し、熱い応援をしてほしい。観客やボランティア等、さまざまな立場でオリンピックに参加してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真  
2年1組



2年2組





■ 集合写真  
2年3組



■ 記念品贈呈  
2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了証贈呈

